

意欲的に取り組む説明文教材の指導の工夫

—— 構成から作文への学習を通して ——

浦添市立港川小学校教諭 増 永 邦 子

目 次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	2
III	研究仮説	2
IV	研究内容	2
	1 説明文の特性	2
	2 単元構成の工夫	2
	3 説明文の読み方指導	3
	4 説明文の構成と作文を結びつける指導	3
V	授業実践	4
	1 単元名	4
	2 単元目標	4
	3 単元設定の理由	4
	4 指導計画	5
	5 指導の展開	7
	6 検証授業	10
	7 資料（説明文及び授業に関する資料）	14
	8 結果と考察	17
VI	研究の成果と今後の課題	18
	1 研究の成果	18
	2 今後の課題	18
	<おわりに>	18

参考文献・引用文献

意欲的に取り組む説明文教材の指導の工夫 ～構成から作文への学習を通して～

浦添市立港川小学校教諭 増永邦子

〔要約〕

本研究は、児童一人一人が意欲的に説明文に取り組み、内容や構成を読み取る力を身につけるとともに説明文の構成に対応する作文の書き方を身につけることを目標としている。児童一人一人が意欲的に取り組み、内容や文章構成を読み取るための方法として、「学習課題作り」「書き込み」「サイドライン」「ワークシート」による主体的な学習を仕組んでみた。さらに説明文の読みで得た文章構成を読み取る力を活用して、生活作文を書かせる工夫を試みた。その結果、文章の要点を正しく理解しながら内容や構成を読み取る力がつき、説明文の構成に対応する作文を書くことができるようになった。

キーワード

□ 説明文 □ 学習課題 □ 要点の読み取り □ 説明的な作文

I テーマ設定の理由

今日の科学技術の進歩と経済の発展は、物質的な豊かさを生むとともに、情報化や国際化、価値観の多様化現象を起こしている。急速に変化する社会（国際化、情報化）においては、変化に主体的に対応し、豊かな心でたくましく生きる力をはぐくむことが大切だといわれている。

国際化・情報化の時代に対応するために、国語科教育においては、「目的や意図に応じて適切に表現する能力と、相手の立場や考え方を的確に理解する能力を養い、思考力や想像力及び言語感覚を育てるようにする」、「表現力と理解力とを偏りなく育てる」、「論理的思考力を育てること」となっている。また、小学校および中学校の国語科学習指導の現状と課題、改善の内容を読むと、現状と課題には、「児童生徒の学習状況について、文章全体の要旨を読み取り自分の言葉でまとめる力、自分の考えをもって筋道立てて表現したりする力などが十分でない」とある。改善の内容には、「文学的な文章の詳細な読解に偏りがちであった指導の在り方を改め、自分の考えをもち、論理的に意見を述べる力、目的や場面に応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読み取る能力や読書に親しむ態度を育成する指導を充実させ、たとえばスピーチや説明をすること、手紙を書くこと、記録や報告をまとめることな

どの学習活動が十分行われるようにする」とある。これを読むと、説明文の学習指導が特に重要だということがわかる。

これまでの説明文の学習を振り返ってみると、学習を進めていくにつれて、子供たちの意欲が次第に薄れていくのを感じた。しかし、子供たちは、文学だけでなく説明文を好む子も多いのである。説明文を読むことで、既知の情報に再会する喜び、未知の情報に出会う驚き、疑問を発見し調べてみたいという問題を解決する楽しさがあるからであろう。子供たちの学習意欲が薄れていく原因を考えると、まず第一に、ぜひ学習したいという意欲をかきたてる工夫が弱かったことである。第二に、説明文ということで、要点や段落のつながり（文章構成）を把握させることにとらわれて、内容を読み深めさせることが十分ではなかったことである。第三に、要点についてただ教え込むだけで、要点の見つけ方やまとめ方を適切に指導できなかったことである。そのため、子供たちが受け身になったからだと考える。子供一人一人が意欲的に取り組むためにも、説明文の指導の工夫が必要であることを痛切に感じている。

説明文の学習において、子供一人一人が意欲的に取り組む手だてとして、次のことに留意したい。

① 身近な生活経験を振り返らせることで、興

味関心を高め、学習への動機づけを行う。

体験的学習を通した動機づけも大切にしたい。

- ② 学習課題作り・書き込み・サイドライン・ワークシートによる主体的な学習を取り入れることで、学習意欲を持続させ、内容を読み取らせる。
- ③ ワークシートを作成し、活用することで、要点を正しく読み取り構成を理解させる。
- ④ 学習したことを基に、図書資料を調べ、紹介文を書くことで、いろいろな読み物を読むとする態度を育てる。
- ⑤ 説明文の構成に対応する作文を書くことで、論理的な表現力を育てる。

このような指導を工夫することで、子供一人一人が説明文に意欲的に取り組み、内容や構成を読み取る力をつけると共に、説明文の構成に対応する作文の書き方を身につけることができるであろうと考え、本テーマを設定した。

II 研究目標

「構成から作文への学習」を通して、子供一人一人が意欲的に取り組み、内容や構成を読み取る力をつけるとともに、説明文の構成に対応する作文の書き方を身につけるための指導を工夫する。

III 研究仮説

- 1 身近な生活経験や体験的学習を通した動機づけをしたり、主体的な学習（学習課題作り・書き込み・サイドライン・ワークシート）を取り入れることで意欲的に取り組むことができるであろう。
- 2 要点を読み取る方法を理解することで、内容を正しく読み取り、構成を理解することができるであろう。
- 3 説明文の構成を作文に結びつける指導をすることで、論理的な表現力が育つであろう。

IV 研究内容

1 説明文の特性

説明文の学習は、論理的な思考力と論理的な表現力を育て、鍛えるための学習である。そのためには、説明文の特性を知ることが大切である。

- (1) 文章全体に決まった形式がある。（序論・本論・結論、はじめ・なか・まとめ）
- (2) 段落の作り方にルールがある。（一段落一事項、文章の意味のまとまりの単位）
- (3) 文の組立が正確である。（主語・目的語・述語が正確に対応する。表現の省略がない。）
- (4) 事柄を述べる語句と性質を述べる語句がある。
- (5) 事柄を述べるために、図・写真等を使うことがある。
- (6) 性質を述べるために、記号・数字・グラフ等を使うことがある。
- (7) 説明文には、報告と論説の二種類の文章がある。報告は一つの事柄を説明するための文章、論説は一つの意見を述べるためにいくつかの事柄を例証として取り上げる文章である。

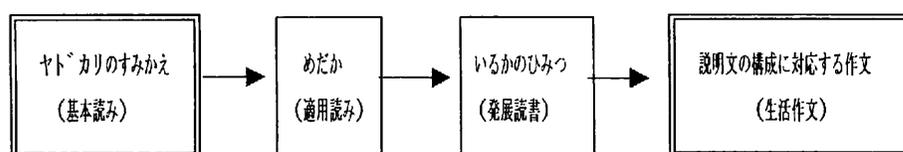
説明文は、いろいろな約束事が多いことがわかる。この約束事を少しずつ指導するのが説明文の学習指導である。

「ヤドカリのすみかえ」や「めだか」の学習では、ワークシートにまとめることで、文章全体の決まった形式（はじめ・なか・まとめ）や段落の作り方のルールを理解させ、文章構成を読み取らせた。

2 単元構成の工夫

指導すべき事柄やめあてにふさわしい、教材を精選して、それを学習活動のめてがうまく達せられるように組み立てることである。

本単元〈生き物のふしぎな力〉では、教科書教材を基本において、なおほかにも教材を選んで組み直してみた。



基本読みに「ヤドカリのすみかえ」を組み入れた理由は、短くてわかりやすいからである。わかりやすいということは、文章構成が明確であり、したがって論理的思考力を鍛えることができるという事である。

市毛勝雄著「説明文教材の授業改革論」には、よい説明文教材の視点が述べられている。それによると、教材の選び方は、第一に「文章構成の明確なもの」、第二に「全文の長さが短いもの、せいぜい見開き二ページくらいがよい」という事が述べられている。その理由として、短いと、いつも全体が見えるから視覚的にも安心であるし、位置関係がつかみやすいから覚えるのも楽であるということである。

最後に、説明文の学習の発展として、生活作文を書くこととする。これにより、「理解」と「表現」の一体化・関連化を図り、論理的な表現力を育てることができると考える。

3 説明文の読み方指導

(1) 要点の読み取り方

説明文は、ある事柄を解き明かす文章なので、論理的な構成になっている。書き手は意図をもって結論へ導くための大事なことを順序だてて並べている。この大事なことが要点である。

「文章の要点を正しく理解しながら、内容を読み取ること」は、小学校三年生の指導事項である。文章の要点を読み取る力は、三年でしっかり身につけておかないと、高学年で中心点や要旨を読み取るにつなげることができない。要点のとらえ方、書き表し方を十分習熟させることが大切である。

① 要点を読み取るポイント

- ・ 疑問の文をみつけさせる。
- ・ 問題の答えや、答えにつながることをさがさせる。
- ・ まとめた言い方に注目させる。
- ・ 「…ました。」の中の「…です。」
「…ます。」の文末に注目させる。
- ・ 書き手の考えが述べられているところに注目させる。

- ・ 段落を通して言おうとしていることを考える。（要点が直接表れていない場合）

「ヤドカリのすみかえ」では、各段落ごとのワークシートを作成し、要点を読み取る学習を行った。

要点を読み取るポイントを基に、大事な文（要点を含む中心文）を選ばせ、短くまとめさせることにした。

② 要点を必要とする場の設定

本単元は、「要点の把握」についての最初の学習になる。そのため「要点」とは何かということについて理解するとともに、なぜ「要点」を抽出することが大切なのかということについても、体験的に理解させたいと考え、要点を抽出せざるをえない学習を組み立てた。

「ヤドカリのすみかえ」や「めだか」において、学習した事を家族に伝える文章を書かせることで、要点を抽出することの大切さを理解させることにした。

(2) 読み深めるための学習課題づくりの工夫

子供達に教材を通読させた後で、<はじめて知ったこと>や<ふしぎだ、もっと知りたい>ことについてサイドラインを引かせた。<ふしぎだ、もっと知りたい>という疑問については、「なぜ…だろう」と書き込みをさせ、個人の学習課題を見つけさせた。次に、個人の学習課題の中から、書き手の課題（中心課題）と関わらせることで、読み深めるための学習課題を選び出して話し合わせ、内容を深く読み取らせるようにした。

学習課題づくりにあたっては、低学年では教師を中心に、中学年では教師と子供で、高学年では、子供達を中心に設定することを原則にしていきたい。子供達の疑問を大切にし、学習を進めていくことが大切である。

4 説明文の構成と作文を結びつける指導

「説明文教材の授業改革論」の中で、市毛勝

雄氏は、説明文学習指導においては、「報告」あるいは「論説」の構成に似た易しい文章を読み、書く学習を行う。そうすることによって、自分の考えを述べるためには、具体的な事実の裏付けが必要なことに気づくようになる。この成果は、特に説明的な作文指導において顕著であると述べている。また、説明文を読んで理解する学習は、説明的な作文を書くための

「お手本」をよく知る学習になる。つまり、説明文の学習はそれ自体で完結している学習ではなく、説明的な作文指導に至る一つの段階であるとも述べている。

この理論に基づいて、説明文の構成と作文を結びつける指導を展開することにした。

構成と作文を結びつけるために、報告や論説の名称を、作文に役立てる名称とした。

作文の構成

説明文の構成

はじめ — 序論（文章の記述の対象を紹介する部分）

なか — 本論（いくつかの事実を記述する部分）

まとめ — 本論（事実に対する考察を述べる部分、「報告」はここまで三年生の作文もここまで。）

むすび — 結論（意見・主張を述べる部分、「意見文」はここまで。）

はじめ	なか 2	なか 1	はじめ
1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17	18	19	20
21	22	23	24
25	26	27	28
29	30	31	32
33	34	35	36
37	38	39	40
41	42	43	44
45	46	47	48
49	50	51	52
53	54	55	56
57	58	59	60
61	62	63	64
65	66	67	68
69	70	71	72
73	74	75	76
77	78	79	80
81	82	83	84
85	86	87	88
89	90	91	92
93	94	95	96
97	98	99	100

はじめ — 2行とする（紹介を書く）

なか 1 — 各7行とする

なか 2 — （紹介したい事について具体例を書く）

具体例は、共通する事柄であるが、つづき話ではない。意見・感想は書かない。

まとめ — 2行とする

（具体例について共通した事でまとめる。）

V 授業実践

国語科学習指導案

1 単元名 生き物の不思議な力

教材名「めだか」

2 単元目標

- (1) 身近な生き物に興味をもち、楽しく文章を読みながら要点を理解し、叙述に即して内容を正しく読み取ることができる。（理解）
- (2) 読み取った要点をもとに、伝える文章を書くことができる。（表現）
- (3) 生き物のふしぎな力に興味を持ち、科学的な読み物を進んで読もうとする。（関心・意欲・態度）
- (4) 説明文の読みで得た文章構成能力を活用して、生活作文を書く。（表現）

- (5) 文章の中の言葉の意味や使い方に気をつけたり、文末表現のはたらきなどに注意することができる。（言語）

3 単元設定の理由

(1) 単元について

第3学年の最初に学習する説明文の単元であり、「要点の把握」についての最初の学習になる。「要点の把握」は、第3学年における重点的な指導事項である。

本単元は、「めだか」と「いるか」（発展読書教材として取り扱う）で構成されているが、「ヤドカリのすみかえ」（光村3年上）という説明文教材を組み入れることで、説明文の学習

の目標である、「論理的な思考力と論理的な表現力を育てること」を鍛えることができると考える。

「ヤドカリのすみかえ」は、一ページに納まる範囲の短い説明文である。問いを立て、実験・観察し、その結果 わかったことは何かというように、文章構成が明確でわかりやすい。

「ヤドカリのすみかえ」でまとまりごとの大事なところ（要点）を落とさずに読み取り、事柄がどのようにつながっているかを学ばせる。そしてその力を生かして「めだか」を自力で読み進めていくことをねらいとしている。「めだか」は、たいへん小さな魚であるめだかの生態を中心とした説明文である。野性のめだかは、沖縄の池や小川では見られないが、教材用として購入するひめだかは、子供たちにとっては、身近な魚である。子供たちにとって身近な生き物であるヤドカリやめだかの不思議な力を読み取ることで、知的好奇心や知的感動が高まることが期待される。さらに、発展教材である「いるか」を読むことで、生き物の不思議な力について書かれている図書への興味、関心を広げたいと考える。

最後に、説明文の学習の発展として、生活作文を書くこととする。これは、論理的な文章の読みで得た文章構成能力を活用することで、「理解」と「表現」の一体化・関連化を図ることができると考えられる。

(2) 児童について

3年生になって説明文を読む学習は、この単元がはじめてなので、「要点を読み取る力」についての具体的なデータは示せないが、事前調査のワークシートやアンケートの結果から、およそ次のようなことがいえる。

- ① 初めての教材にであったとき、どんなことが書いてあるか考えることができる子
(35人中25人)
- ② 字づらがやっと読める子
(35人中10人)

- ③ 説明文の学習が好きな子
(男11人 女9人 計20人)

④ 読書の傾向

- ア 物語・童話が好き
(男6人 女8人 計14人)
- イ 科学的な物語が好き
(男11人 女4人 計15人)
- ウ 両方とも好き
(男3人 女3人 計6人)

2年生では、順序を考えながら内容を読み取る学習をしてきたが、要点を読み取る学習をするのは、今回が初めてである。そこで、本教材を通して一人一人が意欲的に読み深める中で、正確に要点を読み取る技能を身につけさせたい。

(3) 指導について

- ① モンシロチョウを育てた経験などの身近な生活経験を振り返らせることで、「生き物の不思議な力」についての興味・関心を高め、学習への動機づけをおこなう。
- ② 教材を読んでわかったことを、家族に伝えるための文章を書かせることで、文章構成の理解を確かなものとする
- ③ 意欲的に読み取らせる工夫として、書き手の課題（中心課題）だけでなく、個人の学習課題を立てさせ、読みのめあてを持たせる。
- ④ 音読・ワークシート・図表・視写・サイドラインなどの学習を取り入れることで、一人一人を学習に参加させ、自己学習力をつけさせる。
- ⑤ 言語事項の指導は、文脈に即して学習させるようにする。
- ⑥ 一斉学習・グループ学習・一人学習を取り入れて授業を展開する。
- ⑦ 構成の整った生活作文を書かせることで、論理的な表現力を育てる。
- ⑧ 生き物の不思議な力に対する興味・関心を読書へと発展させる。

4 指導計画（全21時間）

第一次 単元全体の学習計画を立てる。

1時 (1/21)

- 身近な生活経験をふり返って、小さな生き物の名前や知っていることについて話し合う。
- 教材を読んで、分かった事を家族に伝えるための文章を書くことを知る。

第二次 「ヤドカリのすみかえ」(光村図書3年上)を読み取る。(基本読み)

1時 (2/21)

- ヤドカリについて資料を見たり、話し合ったりして興味関心を持つ。
- 新出漢字の読み書きをする。

2時 (3/21)

- 「ヤドカリ」や「すみかえ」について話し合い、書き手の課題を見つける。
- 全文を読んで、あらましをつかむ。

3時 (4/21)

- 6つのまとまり(形式段落)で文章ができていている事を理解する。
- (1)~(4)のまとまりの内容を理解しながら、要点を読み取る。

4時 (5/21)

- (5)、(6)のまとまりの内容を理解しながら、要点を読み取る。
- 文章のまとまり(意味段落)と構成を理解する。

5時 (6/21)

- 読み取った要点をもとに、家族に伝える文章を書く。

第三次 「めだか」を読み取る。(適用読み①)

1時 (7/21)

- めだかについて話し合ったり、ビデオを見たりして、興味関心を持つ。

2時 (8/21)

- 「めだか」を読んで、書き手の課題を見つける。
- 全文を読み、学習課題を作る。
- ※ 新出漢字の読み書きは、書写の時間に取

り扱う。

3時 (9/21)

- 全文を読み、あらましをつかむ。
- 形式段落を確認し、(1)、(2)のまとまりの内容や要点を読み取る。

4時 (10/21)

- 課題1に沿って、「めだか」の身の守り方について理解し、要点を読み取る。

5時 (本時・11/21)

- (8)~(12)までの課題を理解する。
- めだかの体にそなわっている特別なしくみ(課題2)を理解し、要点を読み取る。

6時 (12/21)

- めだかの体にそなわっている特別なしくみを理解し、要点を読み取る。

7時 (13/21)

- まとめの段落の要点を読み取り、文章のまとまり(意味段落)と構成を理解する。

8時 (14/21)

- 読み取った要点をもとに、家族に伝える文章を書く。

第四次 「イルカのひみつ」を読み取る。(適用読み②)

1時 (15/21)

- 新出漢字の読み書き、語句調べをする。

2時 (16/21)

- どんなひみつが書いてあるかを読み取る。

第五次 説明文の基本的な型を利用した生活作文を書く。

1時 (17/21)

- 家族の中から、じまんでできることを考える。
- 構成一覧表を作る。

2時 (18/21)

- 「がんばるばあちゃん」の新出漢字の読み書き、語句調べをする。

3時 (19/21)

- 構成一覧表に従って、お友達に伝える文

章（生活作文）を書く。

○ 生活作文の発表会をする。

4時～5時 (20/21-21/21)

5 指導の展開

時	学 習 目 標	学 習 活 動
1/21	◎身近な生活経験を振り返って、生き物について興味関心を持つことができる。	1. 「モンシロチョウ」を育てた経験を話し合う。 2. 「モンシロチョウ」（図書）の絵を見る。 3. 生き物についてふしぎだな・調べてみたいなど思った事をカードに書く。 4. 単元全体の学習計画をたてる。
2/21	◎ヤドカリに興味関心を持つことができる。 ◎新出漢字の読み書きができる。	1. OHPシート（ヤドカリの体のつくり・ヤドカリのすみかえの様子）を見る。 2. ヤドカリについて話し合う。 3. 新出漢字の読み書きをする。
3/21	◎「ヤドカリ」や「すみかえ」について話し合い、書き手の課題を見つける事ができる。 ◎全文を読んで、あらましをつかむ事ができる。	1. 「すみかえ」について何のことか考える。 2. 一段落だけを読み、これからどんな事を学習していくのかを考える。 ワークシート1 3. 全文を音読する。 4. <はじめてしまったこと>や、<しっていたこと>についてカードに書く。 5. カードをもとにあらましをつかむ。
4/21	◎六つのまとまりでできている事を理解する事ができる。 ◎(1)～(4)のまとまりの要点を読み取る事ができる。	1. 全文を音読する。 2. 一字下がりの意味について知り、番号をつけて六つのまとまり（形式段落）に分ける。 3. (1)のまとまりを音読し、ワークシートをもとに大事な文を選ぶ。(1)のまとまりの要点をワークシートにまとめる。 ワークシート2 4. (2)、(3)のまとまりを音読し、ワークシートを基に大事な文を選ぶ。 (2)、(3)のまとまりの要点をワークシートにまとめる。 ワークシート3 5. (4)のまとまりを音読し、ワークシートを基に大事な文を選ぶ。 (4)の要点をワークシートにまとめる。 ワークシート4

5/21	<p>◎(5)、(6)のまとまりの要点を読み取る事ができる。</p> <p>◎文章のまとまり(意味段落)と構成を理解する事ができる。</p>	<p>1. 全文を音読する。</p> <p>2. (5)のまとまりを音読し、ワークシートを基に大事な文を選ぶ。 (5)のまとまりの要点をワークシートにまとめる。 ワークシート5</p> <p>3. (6)のまとまりを音読し、ワークシートを基に要点を短くまとめる。 ワークシート6</p> <p>4. 要点を基に大きなまとまりを考えて、小見出しをつける。 ワークシート7</p>
6/21	◎家族に伝える文章を書く事ができる。	1. 要点を基に、家族に伝える文章を書く。
7/21	◎めだかについて知っている事や感想を話し合い、興味関心を持つことができる。	<p>1. 「めだか」について知っている事を発表する。</p> <p>2. ビデオ「めだかの育ち方」を見る。</p>
8/21	<p>◎「めだか」の全文を読み、書き手の課題を見つける事ができる。</p> <p>◎ 学習課題を作る事ができる。</p> <p><u>個人の課題</u></p> <p><なぜ3, 4センチメートルぐらいにしかのびないのだろう></p> <p><なぜたくさんのにねられてしまうのだろう></p> <p><なぜ、たがめやげんごろうが、やごやめだかをねらうのだろう></p> <div data-bbox="429 1521 1078 1662" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><なぜ、めだかは、みをまもることができるの></p> <p><めだかは、そのようになてきからどのようにしてにげるのでしょう></p> </div> <div data-bbox="429 1703 1078 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><なぜ、めだかはさっとなにげることが上手なのだろう></p> <p><なぜ、すばやくおよげるのだろう></p> </div> <p><なぜめだかは、みちしおにのって川にもどってくる事ができるのだろう></p>	<p>1. 全文を音読する。</p> <p>2. <生き物のふしぎな力>という単元名から「めだか」でどんな事を学習していくのかを考える。 ワークシート1</p> <p>3. <はじめて知ったこと>, <もっと知りたいこと>についてカードに書く。</p> <p>4. <もっと知りたいこと>を基に、個人の学習課題を作る。</p> <p>課題1と同じ</p> <p>課題1を読み深めるための課題</p>

	<p><とくべつなくみとはなんだろう></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><てきから身を守るほかにもっとどんなことがあるのだろう></p> <p><なぜめだかは、わずかにのこった水たまりでも生きてられるのだろう ></p> <p><なぜめだかは、四十度近くまで生きられるのだろう></p> <p><なぜめだかは、どうしてかいすいでもいきられるのだろう></p> <p><真水に海水のまざる河口ふきんでもいきることができるのだろう></p> </div>	<p>課題2と同じ</p> <p>課題2を読み深めるための課題</p>
9/21	<p>◎全文を読みあらましをつかむことができる。</p> <p>◎13のまとまり（形式段落）を理解する事ができる。</p> <p>◎(1), (2)のまとまりの内容を読み取り、要点をまとめる事ができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全文を音読する。 2. 13のまとまり（形式段落）に分ける。 3. (1)のまとまりを読んで、めだかについて書かれていることを読み取り、ワークシートに書く 4. (1)のまとまりの要点をワークシートにまとめる。 ワークシート2 5. (2)のまとまりを読んで、めだかについて書かれていることを読み取り、ワークシートにまとめる。 ワークシート3 6. (2)のまとまりの要点をワークシートにまとめる。 ワークシート4
10/21	<p>◎課題1に沿って、「めだかの身の守り方」を理解し、要点をまとめる事ができる。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 全文を音読する。 2. (3)～(7)のまとまりを読む。 3. 読み深めるための課題を取り上げ、内容を読み深める。 4. まとまりごとの大事な文にサイドラインを引き要点を見つける。（グループ学習） 5. (3)～(7)のまとまりの要点を、グループごとに発表する。 6. 要点のまとめ方を話し合う。 7. (3)～(7)のまとまりの要点を、ワークシートにまとめる。 ワークシート5

6 検証授業 (11/21時)

平成10年6月29日(月)2校時
 3年2組 男20名 女15名 計35名
 指導者 増永邦子

(1) 目標

- 形式段落(8)～(12)の課題を見つけることができる。
- めだかの体の特別なしくみを読み取り、要点をまとめることができる。

(2) 展開

学 習 活 動	○ 指導・支援 ◎ 個への対応 () 留意点	評価の観点
1. 全文を音読する	○ 一斉音読	◆正しく音読できたか。(理解)
2. (8)から最後までを音読し、これから学習することを考える。	○ 形式段落ごとにグループで読ませる。 ○ 「こうして」という言葉から、これまでの学習を振り返らせる。 ○ (8)～(12)までの課題を見つけさせる。(問題文に直せるところにサイドラインを引かせる。) ◎ 課題を見つけることができない子を支援する。 ○ 問題文に直した(8)のまとまりを、一斉に読ませ問題文であることを理解させる。	◆めだかの身の守り方が理解できたか。(理解) ◆(8)～(12)の課題を見つけることができたか。(理解)
3. (8)～(10)までのまとまりごとに、内容を読み取る。	○ (8)～(10)までのまとまりで、疑問点を見つけ、書き込みをさせる。(なぜ～なのかという言葉を書き込むように指示する。) ◎ 疑問点を見つけることのできない子を支援する。 ○ 書き込みをした疑問点と、すでに立ててある学習課題をもとに、内容を読み取らせる。 ○ (接続詞)や(助詞)に注意させる。	◆疑問点を見つけることができたか。(関・意・態)
4. 読み取った内容をワークシートにまとめる。 ワークシート6	○ 全員がまとめることができるようにグループで協力させる。 ◎ まとめることが遅い子を支援する。	◆めだかの体のとくべつなしくみを読み取ることができたか。(理解)
5. (8)～(10)までのまとまりごとに、要点を考え、ワークシートにまとめる。 ワークシート7	○ 要点について、グループで話し合わせる。 ○ 話し合いの進まないグループを支援する。 ◎ まとめることが遅い子を支援する。	◆要点を考えることができたか。(理解)
6. 要点を検討する。	○ (8)～(10)のまとまりの要点を短冊カードに書かせる。(短冊カードは黒板にはる) ○ 各グループの要点のまとめかたについて考えさせる。	◆要点のまとめ方がわかったか。(理解)
7. 次時予告	○ 大雨になると、めだかはどうなるのかを学習することを告げる。	

(3) 検証授業の反省

指導書には、全体が14段落で4つの大段落からなる尾括型の説明文だとあるが、形式段落の(1)は、童謡「めだかの学校」の歌詞なので、前書きとしてとらえ、全体を13段落として捉えなおした。

学習活動1について

○ 授業のたびに音読で始まり、一斉読み・グループ読みと変化を持たせながら音読させることで、子供たちは文章に慣れ、すらすら読めるようになってきた。

学習活動2について

○ 教材分「めだか」には、課題が2つある。課題1は「めだかの身の守り方」であり、課題2は「めだかの体の特別なしくみ」であるが、本時に書かれている課題2を見つけることが容易ではなく、時間がかかってしまった。課題2だと思ふところにサイドラインを引かせてみたが、机間巡視をしてみると、課題をだいたいとらえることができた子は8名ぐらいで、ほとんどの子は迷っていた。その原因を考えてみると、まず第一に、前時までの学習をふり返り、課題1について学習したことを確認しないうちに、課題2を見つける作業に入ってしまったからだと考える。第二に、課題2が問題文となっていないため、気づくことが難しかったからだと考える。

○ 課題2「めだかの体の特別なしくみ」を、問題

学習活動6について

○ 時間が足りないため、短冊カードに書くのは、「めだかの体のとくべつなしくみ」について書かれている10段落とした。要点をまとめるのにも時間がかかったが、6つのグループとも、10段落の要点をだいたいとらえることができた。

10段落の要点

めだかは、わずかな水たまりでも、水温が上がってもたえられる。

①グループ

めだかの体は、四十度近くまで水温が上がってもたえられる

文に直させることで、課題であることに気づかせることができた。

学習活動3について

○ 段落ごとに内容を読み取る活動では、疑問点を見つけて書き込みをさせてみたが、いろいろな疑問があまりでなかった。しかし、課題、「なぜめだかは、わずかに残された水たまりでも生きていられるのだろう」、「なぜめだかは、四十度近くまで生きられるのだろう」という課題2を読み深めるための課題が子供たちからすでに出ていたため、その課題を話し合うことで内容の読み取りが深まった。

○ 「ふな」や「こい」について図書資料を提供し、具体的に大きさを知らせることで、「めだか」との比較ができて、読み取りが深まった。

○ 「でも」(接続詞)や「ので」(助詞)をしっかりと押さえることができなかった。しっかりと押さえておけば、内容の読み取りがより深められたと考える。

学習活動4, 5について

○ 時間が足りないため、読み取った内容をワークシートにまとめながら、要点を話し合う活動を行ったので、グループ学習にまだ十分に慣れていない子供たちは、要点をまとめるのに大変苦勞していた。結局、休み時間までくい込んでしまったが、どのグループも粘り強くやり遂げることができた。

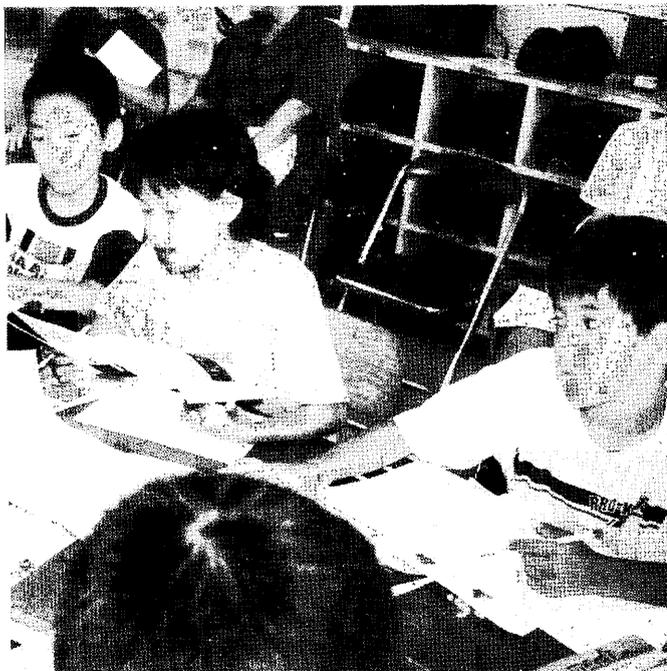
- ②グループ ————— わずかに残された水たまりでもだいじょうぶ
- ③グループ ————— めだかの体は、四十度近くまで水温が上がってもたえられるようにできています
- ④グループ ————— 四十度近くまで水温が上がってもたえられるようになっている
- ⑤グループ ————— 四十度近くまで水温が上がってもたえられようになっている
- ⑥グループ ————— 水温が四十度近くまで上がってもたえられる

○ 要点をまとめるだけで精一杯であり、要点を検討することができなかった。要点の検討は、次時となった。その際、他のグループと違う②グループの要点を話し合い、〈体が小さいということは、めだかの体のとくべつなくみの1つである〉ということを押さえた。したがって要点は、〈水温が上がってもたえられること〉と〈わずかにのこされた

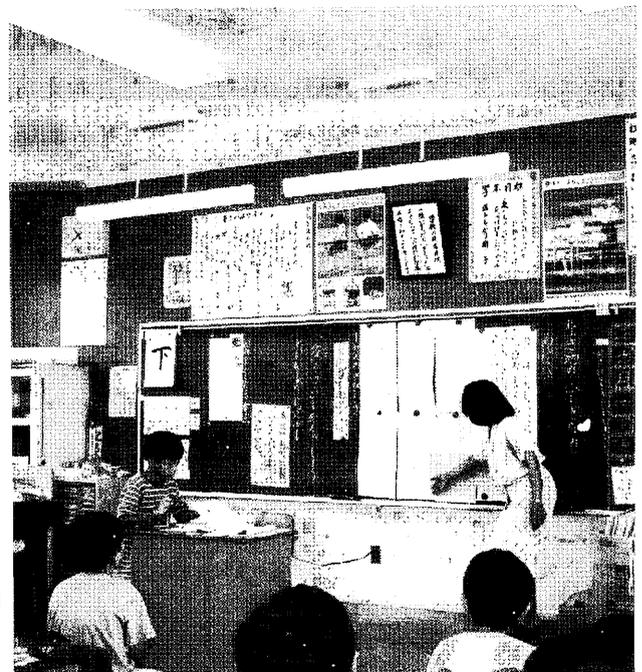
水たまりでもだいじょうぶ〉との両方をとらえなければいけないというまとめかたをした。

○ 1～7までの学習活動は、欲張りすぎたように思う。そのため休み時間にくい込んでしまったが、子供たちは最後まで要点をまとめることに懸命で、意欲が感じられた。

要点についての話し合い（グループ学習）



各グループの要点の紹介



児童の感想（説明文の学習を終えて）

どすかしかったけど、やってみると
したのしかった。

内原 亜沙香

どすかしのべんぎょうが
したのしかった。

宮城 奈々

どすかしのべんぎょうが
思ったけど、かんたんだった。

濱 盛 杏奈

どすかしのべんぎょうが
うすにやりやすくなったのでうれしい
です。

当山 由美

どすかしのべんぎょうが
できたよ。

大城 現

どすかしのべんぎょうが
かんたんになった。

國仲 修平

どすかしのべんぎょうが
かんたんになりました。

当銘 栄彦

どすかしのべんぎょうが
かんたんになりました。

西畑 慎太郎

どすかしのべんぎょうが
またしたりで。

與那嶺 舞

どすかしのべんぎょうが
かんたんになりました。

松田 夏美

どすかしのべんぎょうが
かんたんになりました。

比嘉 優貴

どすかしのべんぎょうが
かんたんになりました。

比屋根 安皓

どすかしのべんぎょうが
かんたんになりました。

銘 莉 祐作

どすかしのべんぎょうが
かんたんになりました。

比嘉 まり子

(2) 説明文の構成に対する作文

はじめ	なか	おわり	題名
ぼくのお父さん ぼくのお父さんは トラックの運転 手で……	ことがら(1) いつも朝早く…… ことから(2) 日曜日……	……よく働きます	ぼくのお父さん
はじめ	なか	おわり	題名
わたしの父さん わたしの父さんは、ホテルのしごとを うとす。	ことがら(1) はにむこわたしがもんだいがある、だから すぐにきます。 ことがら(2) みんなのために、いつもおいしいものを かんがえてくれます。	みんなのために、いつもおいしいものを かんがえてくれます。	わたしの父さん

書くことをえらんで
家族の中より一番好きなことを見つけて、友達に知らせる
作文を書きましょう。
作文メモ
前 松岡 ひろこ

はじめ なか1 なか2 おわり

かんぱりやはお母さん	比嘉 まり子	お母さんは、おかしを作るのが大好きです。	お母さんの作るおかしは、ごはんは、とてもおいしいです。
わたしのお母さんは、おりにうりやおかしを作るのが上手です。	朝早くおきて、ごはんを作ってくれます。日曜日も、ごはんや、買い物をして、さいしよに、水を入れて、その中に麦を入れて、ごはんを作るのに入れて、30分まで、かんせいです。	おかしを作るのは、小麦こをに入れて、たまごも入れて、ぎゅうに、うも入れて、オーブンに入れて、かんせいします。	

8 結果と考察

〈要点〉について

「ヤドカリのすみかえ」（基本読み）で、大事な文を選び、それを短くまとめることで、要点のとらえ方を学習した。大事な文を選ぶポイントとして、すみかえ（キーワード）に着目させた。

「めだか」（適用読み）では、要点を自力で読み取る学習をした。要点の読み取りは、三段階（◎、○、△）に分けて評価し、「ヤドカリのすみかえ」における要点の読み取りと比べてみた。

要点の読み取り	基本読み	適用読み
◎ 大事な文を選び 短くまとめることができる	4人	8人
○ 大事な文を選ぶことができる	21人	18人
△ とらえきれない	10人	9人

基本読み比べ適用読みでは、要点を読み取る力がついたことがわかる。

〈文章構成〉を読み取る力について

文章構成の読み取り	適用読み
◎ ヒントを基に、すぐに読み取ることができた	22人
○ 2回目で読み取ることができた	9人
△ 個人指導で読み取ることができた	4人

生活作文の評価基準

◎：内容に一貫性があり伝えたいことが明確である。

様子がくわしく書けている。

○：内容に一貫性があり伝えたいことが明確である。

△：伝えたいことがはっきりしない。

未：未提出

各段落の要点を読み取る力がついたことで、35人中31人が段落相互の関係に気づき、意味段落にまとめ、小見出しをつけることができるようになった。このことから、文章構成を読み取る力がついたことがわかる。

〈内容〉を読み取る力について

サイドラインを引き、書き込みをし、疑問をもとに学習課題を作るなどの主体的な学習を行うことで、学習が意欲的になった。また、ワークシートにまとめたり、家族に伝える文章を書くことで、内容の読み取りが確かなものとなった。

市販テストでも内容の理解度を調べてみた。その結果、要点を読み取る力が△の子9人のうち、3名だけが70点未満であり、学級平均は86点（100点10人、90点以上15人、80点以上6人、70点1人）であった。

テストは、検授業の第5時と6時の内容である「めだかの体のとくべつなくみ」についてである。「めだか」で1番難しいところだが、内容をよく理解できたことがわかる。

〈説明文の構成に対応する作文〉について

第5時の生活作文では、論理的表現力を身につけるために作文を書くという考え方に立ち、構成一覧表に基づき、「はじめ」「中」「まとめ」の内容に一貫性があり、筋道だてて書く学習を行った。その結果、伝えたいこと（中心）が明確で、まとまりのある作文を書くことができるようになった子が増えた。

項目	児童番号																				
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
男子	生活作文(説明文の学習前)	未	○	△	△	○	未	○	未	△	○	◎	◎	○	○	○	△	○	○	△	○
	生活作文(説明文の学習後)	◎	◎	△	△	◎	△	◎	△	△	△	◎	◎	○	◎	◎	△	○	○	○	○
女子	生活作文(説明文の学習前)	○	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	◎	△	◎						
	生活作文(説明文の学習後)	○	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	◎					

○ 作文の評価が◎と○の子は、説明文の学習後では35人中27人であり、学習前に比べると7人増えている。27人は、説明文の構成に対応する作文の書き方を身につけることができたと考える。

○ 説明文の学習後○から△になった子が一人いるが、教師の設定したテーマ（家族の中からじまんしたいこと）について、何をじまんしたいか見当がつかなかったため、たえず話し合いながら書かせた。

○ 作文は、原稿用紙三枚書かさなければならないという考えを捨て、原稿用紙一枚でよいとした。そのため、全員が書きあげることができた。

○ 説明文の文章構成と対応させて理解させることで、35名全員から、作文の書き方がわかってきたという感想を得ることができた。

VI 研究の成果と今後の課題

1 研究の成果

- ① 身近な生活経験や、モンシロチョウを育てた体験的学習を振り返らせたり、ヤドカリのすみかえの写真やビデオ「メダカのたまごの育ちかた」などの具対物を通して興味関心を高めることができた。
- ② 学習課題作り・書き込み・サイドライン・ワークシートによる主体的な学習を取り入れることで、意欲的に取り組むことができた。
- ③ 要点の読み取り方が分かったことで、内容や構成を理解する力がついた。
- ④ 説明文を学習した後に、説明文の構成に対応する作文を書くことで、論理的な表現の仕方がわかった。

2 今後の課題

- ① 授業の展開は、教師の言葉一つで変わってくる。適切な発問の仕方を工夫したい。
- ② ポイントとなる大切な学習場面で、学習をより効果的にするために、OHP資料の活用の仕方を工夫したい。
- ③ 話し合いによって、一つの意見にまとめていくグループ学習は容易ではない。日頃から、

グループで話し合う活動を多く取り入れることで、話し合いのやり方を指導したい。

④ 要点や文章構成を読み取る力がついていない子供達への指導の仕方を工夫したい。

⑤ 説明文の構成に対応する作文の書き方ができていない子供たちへの指導を継続したい。

<おわりに>

長いようで短かった半年間、あっという間に過ぎ去ろうとしています。研究所での研修生活では、現場にいる時には味わえない充実感を満喫できました。一つの事を追求する時間を与えられたことは、心にゆとりが生まれ、子供達を見る目にもゆとりがでてきたように思います。自分のテーマに基づく研究だけではなく、コンピュータ操作の指導を受けたり、「みんなちがってみんないい」という大切なことに気づかされたりと、実り多い研修ができました。

テーマ設定や研究の方向性について暖かく指導してくださった新城所長はじめ、池田係長、當間主事、適切なアドバイスで授業のポイントを教えてくださった教科指導員の山城ちえ子先生、説明文の授業のあり方を教えてくださった仲地重夫先生には大変お世話になり、深く感謝いたします。

また、貴重な時間を与えてくださり激励してくださった宮里政和校長先生、教育委員の先生方、相談相手になっていただいた袴・大濱の両先生や研究所職員の方々に心よりお礼を申し上げます。

参考文献・引用文献

- | | |
|-----------------------|--------------------------------|
| 市毛勝雄著 | 「説明文教材の授業改革論」
明治図書 |
| 市毛勝雄著 | 「作文の授業改革論」
明治図書 |
| 石田佐久馬著 | 「説明文教材による授業の進め方・深め方」
東洋館出版社 |
| 石田佐久馬著 | 「新しい学力観にたつ説明文の授業はいま」
東洋館出版社 |
| 藤原 宏 編著 | 「小学校説明文教材指導実践事典」
教育出版 |
| 長谷川孝士
田近洵一編 | 「情報と論理を追求する説明文の授業」
国土社 |
| 筑波大学附属小学校
国語科教育研究部 | 「これだけ教えた基礎・基本辞科」
図書文化 |
| 国語三年上 | 「国語学習指導書」
光村図書・教育出版 |